











令和5年度表彰者

# ふくい地域創生アワード

## 実績・業績集

# もくじ

	「ふくい地域創生士」の認定・「ふくい地域創生アワード」表彰制度の目的 令和5年度「ふくい地域創生アワード」表彰者について	・・・2
	福井大学 国際地域学部 国際地域学科 吉田 真菜 「まちづくりカレッジSakai」の受講を通じた地域振興活動	・・・3
	福井県立大学 生物資源学部 生物資源学科 川端 理希 大野市勝原におけるコクワガタ奇形個体の採集記録	・・・7
	福井県立大学 生物資源学部 生物資源学科 齋藤 健人 福井県嶺北地域の大型土壌動物の理解への貢献とその知見の還元	・・・10
	福井県立大学 生物資源学部 創造農学科 大塚 麗華 三里浜オリーブなど地域農産物を活用した新商品開発に関する研究	・・・13
	福井県立大学 海洋生物資源学部 海洋生物資源学科 宮崎 新 越前若狭の観光宣伝隊	・・・18
	仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科 宮永 彩子 イベントのボランティア体験と福井の観光課題についての卒業研究	・・・21
	結びに	・・・27



## 「ふくい地域創生士」の認定・「ふくい地域創生アワード」表彰制度の目的

福井県内すべての4年制大学が、福井県および産業界・医療界等と一体となって、地域の持続的な発展とイノベーションを推進する担い手を育てようとするふくい地域創生士の認定制度が、ふくいCOC+事業（※1）を契機に始まり今年度で7年目を迎えました。令和2年度からは、COC+事業の終了に伴い福井県の協力のもと、県内すべての高等教育機関が参加した協議体FAAふくいアカデミックアライアンスが認定・表彰を担っています。この認定・表彰制度は、“ふくい”というフィールドで地域に興味を持ち、理解を深めるための地域志向科目を学び、様々な課題に対し、フィールドワークやインターンシップ等を通してアプローチし実績を積み、「地域に貢献できる人材」と認定された学生を「ふくい地域創生士」として認定し、さらにその中から「顕著な業績を残し、地域の持続的な発展に寄与できる人材」として推薦されると、「ふくい地域創生アワード」（※2）として表彰されるというものです。そうした取組を通じて地域を知り、地域に触れて、地元定着率の向上を図ることが目的です。

※1・・・「地（知）の拠点大学に地方創生推進事業（COC+）」（平成27年度～令和元年度）は、文部科学省による補助事業で、このうちふくいCOC+事業は福井大学を責任校に県内すべての4年制大学が参加し、福井県ならびに地域の産業界等と連携し、各大学の強みを活かしながら、その地域の課題解決に向け中心的役割を担える人材を養成した事業。

※2・・・「ふくい地域創生アワード」として推薦される際、各自が取り組んだ、地域の課題解決に繋がる実践活動や連携活動の実績、地域の持続的な発展や地域産業の振興に繋がる研究成果などの顕著な業績を申請書に300字程度で記載する。



## 令和5年度「ふくい地域創生アワード」表彰者について

令和5年度の「ふくい地域創生アワード」表彰者は6名（福井大学1名、福井県立大学4名、仁愛大学1名）です。令和6年3月14日に開催された「ふくい地域創生士認定証授与式並びにふくい地域創生アワード表彰式」において、各自の業績が発表されました。本来すべてのアワード対象者が発表を行う必要がありますが、やむを得ない事情により欠席となった対象者の発表の場の確保も兼ね、本稿にまとめ発信しております（今年度は欠席者はありませんでした）。

学生たちのいきいきとした息づかいが伝わってくるような研究成果の数々。その先輩たちの姿に憧れて、ふくい地域創生アワードを目指す学生も出てきています。本取組が広く地域に知られ、ふくいならではの認定制度として地域がこれを支えてくれるようなものになっていってくれたらと関係者一同願っております。

### 【お断り】

本稿掲載のふくい地域創生アワード表彰者によるスライドおよびスライド内記載のデータ等々につきましては、無断転用・引用等を禁止とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

【所属・氏名】 福井大学 国際地域学部 国際地域学科 吉田 真菜

【実績・業績】 「まちづくりカレッジSakai」の受講を通じた地域振興活動

【実績・業績内容】

## 継続的な地域活動への参加と 地域振興活動の実施

福井大学 国際地域学部  
国際地域学科 地域創生アプローチ  
吉田 真菜

### これまでの取り組み



# これまでの活動を通して

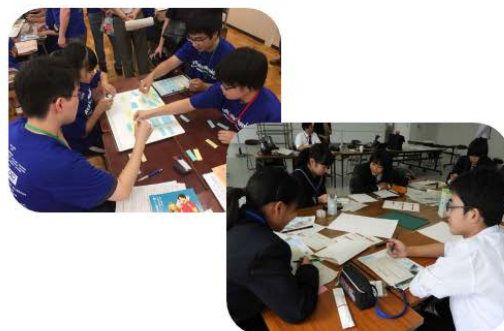
保育所～中学生

地域の自然や歴史・伝統に  
継続的に触れる・興味を持つ



高校生

新聞部等での活動を通して  
地域課題を知る・考える



3

## 竹田Tキャンプ

T=Think 「学生」×「地域」×「行政」

— 学生のやりたいを実現する学生団体

参加期間：2年生～4年生

2021年3月～2024年3月

参加プロジェクト：

めぐる事

「竹田遺産」を後世に遺すプロジェクト

さくら事・さくら隊

竹田の里しだれ桜まつりのお手伝い

ひろば事

たけくらべ広場周辺の再開発案を考える  
プロジェクト



4



# 歩いて感じよう 丸岡城の大きさ

— 丸岡城 城下町を舞台にしたまち探検

準備期間：約3ヶ月

2021年9月～11月

日時：2021年11月23日

9:00～12:00

対象：小学生とその家族

申込数：11組（33名）

当日参加数：6組（19名）

まちづくりLABoratory



5

# 春江ちゅうぶ子どもフェス

— 春江中コミュニティセンターを利用したお祭り

準備期間：約6ヶ月

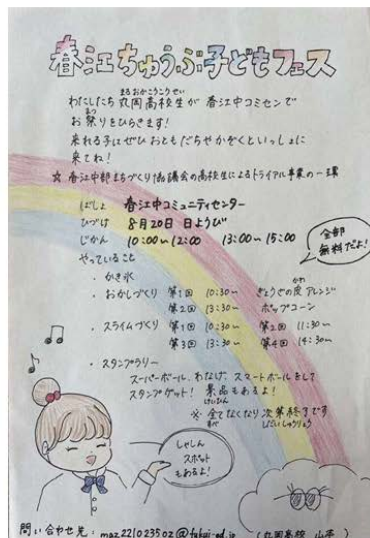
2023年3月～8月

日時：2023年8月20日

10:00～15:00

対象：地域の子どもたち

当日参加数：約360名



6

## これまでとこれから

保育所～  
中学生

イベントや活動を通して地域の自然や歴史・伝統に  
継続的に触れる・興味を持つ



高校生

新聞部等での活動を通して 地域課題を知る・考える



大学生  
社会人

学んだことを活かして 課題解決策を企画・実施

7



【所属・氏名】 福井県立大学 生物資源学部 生物資源学科 川端 理希

【実績・業績】 大野市勝原におけるコクワガタ奇形個体の採集記録

【実績・業績内容】



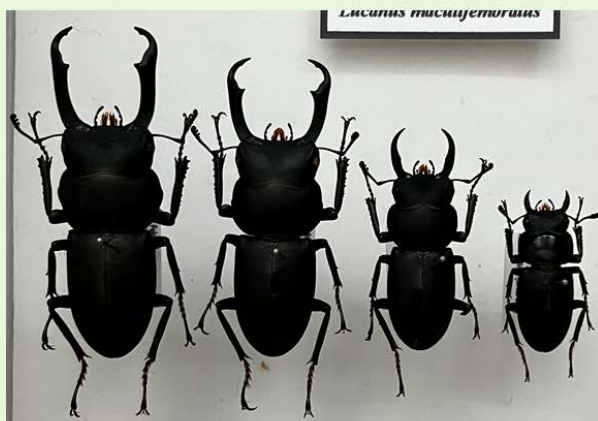
2024/03/14  
ふくい地域創生士アワード表彰式  
アオッサFスクエア

## 大野市勝原におけるコクワガタ *Dorcus rectus* 奇形個体の採集記録 福井市自然史博物館研究報告第69号より

川端 理希

福井県立大学 生物資源学部 生物資源学科  
分子機能科学研究領域 食品機能科学分野

### コクワガタ *Dorcus rectus* (Motschulsky)



コクワガタ *Dorcus rectus* (Motschulsky)  
体長 (雄) : 30~55 mm  
体長 (雌) : 20~35 mm  
発生時期 : 5~8月  
生息域 : 北海道~トカラ列島中之島  
福井での生息域 : 全域に生息

大歯

大歯

中歯

小歯

雄では大顎形状の多様な変化がみられる



## 報告個体の採集地点とその特徴

### 採集場所



大野市勝原（○部分付近）  
採集日：2022年6月19日 22時頃

### 採集個体



コクワガタ *Dorcus rectus*  
採集方法：灯火採集（街灯）

### 採集場所でみられる昆虫の例



オオミズアオ



オオゾウムシ



ミヤマクワガタ



アカガネサルハムシ

コガネムシ上科昆虫の採集中に偶然発見

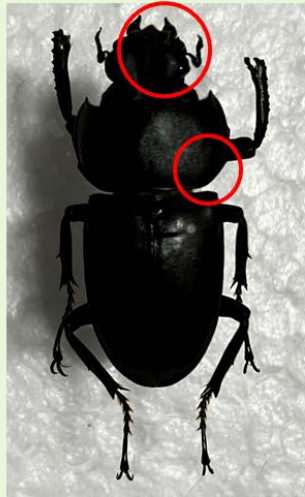


形態が異常であったため持ち帰る

## 報告個体の特徴



通常個体♂



報告個体♂



前胸背板の形状  
↓  
くびれ込みが大きい



触角の形状  
↓  
不完全



頭部, 口唇と頭楯の形状

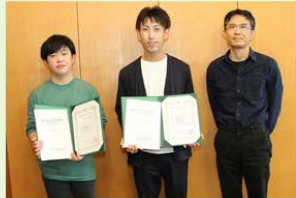


幼虫に近い

出典：月夜野さのこ園

## 本報告がもつ価値

野生下での採集は公式報告なし（トカラノコギリクワガタ飼育個体の報告がある）  
4ヶ月以上生存, 摂食, 排泄および飛翔行動の確認 → 頭部形状の異常は行動を制限しない



つぐみ賞受賞



博物館にて特別展示



ラジオ出演



福井発の貴重な採集例

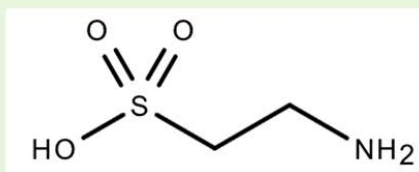
謝辞

福井市自然史博物館学芸員（昆虫担当）梅村信哉氏

## 昆虫とタウリン

趣味：昆虫採集

研究：食品機能科学



Taurine  
2-Aminoethanesulfonic acid



昆虫（コオロギ）にもタウリンが！

タウリン



認知機能の低下を抑制

飲水投与



【所属・氏名】 福井県立大学 生物資源学部 生物資源学科 齋藤 健人

【実績・業績】 福井県嶺北地域の大型土壌動物の理解への貢献とその知見の還元

【実績・業績内容】

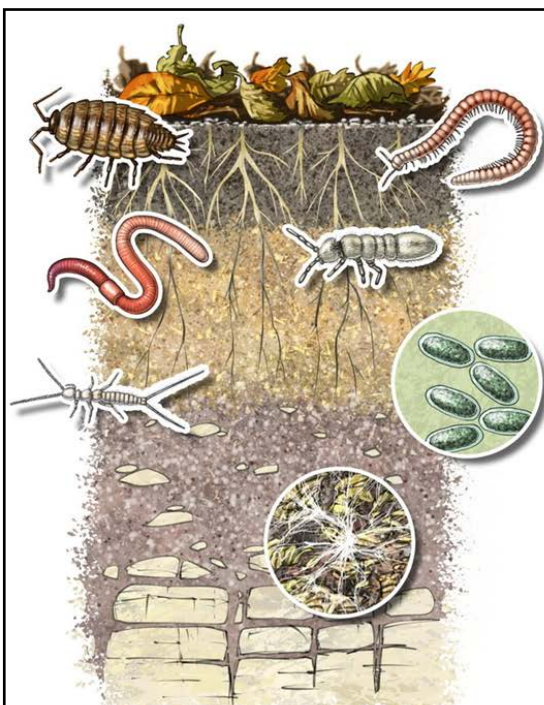


福井県立大学  
Fukui Prefectural University

# 福井県の土壌生物調査と 地域の環境教育活動

福井県立大学 生物資源学部 生物資源学科  
植物資源学研究領域 環境植物学分野

齋藤健人



FDolambi | Écologie Faune du sol  
<https://www.fdolambi.com/illustrations/ecologie/>

## 土壌生物とは？

土壌表層や地中に生息する生き物の総称。

ミミズ、ムカデ、ダンゴムシなどなど。

これらを各地で調査し比較することで、

生物の分布状況がわかるだけでなく

**土地利用や環境変化を知る手がかりにもなる。**

世界各地で  
調査が進行中！



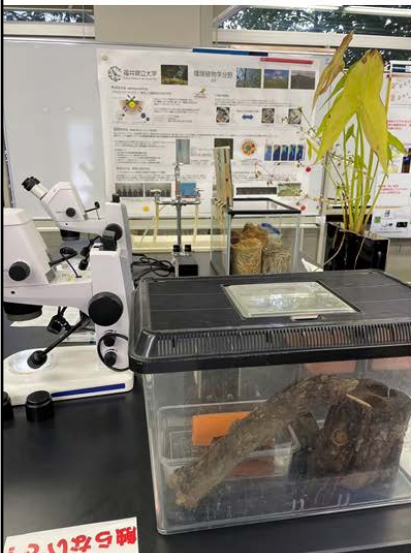
## いろいろな生物が見つかりました

◀福井県立大学周辺の河川敷で採集した生物の一例。  
 ミミズ、ムカデ、ヤスデ、カニムシ、ゴミムシ...  
 様々な生物が存在した。



カニムシのなかま

## 地域の環境教育に貢献



▲オープンキャンパスでの研究紹介ブース



▲学校祭で配布したオリジナルポストカード



▲学外でのワークショップ企画と研究紹介の様子 (つくみラボ)



▲親子を対象とした魚のつかみ取りイベントの運営 (つくりく)



## 研究以外の活動

- 化石発掘調査に参加
- 来年度からは古生物学を専攻
- 福井の恐竜研究の発展や魅力の発信に貢献したい



▲化石発掘現場である勝山市の北谷層

【実績・業績内容】

## オリーブの地域特産化に関する研究 ～三里浜砂丘地農業の活性化に向けて～



福井県立大学  
生物資源学部 創造農学科  
大塚麗華

### 研究背景

農業インターンシップで三里浜オリーブ生産組合(2018年設立)へ  
→福井でオリーブ栽培されていることを知る！

→オリーブを福井の特産品に！



地域活性化



### 研究目的・方法

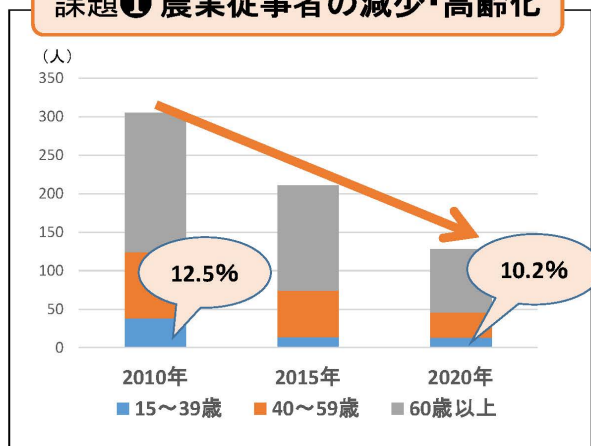
- ①三里浜砂丘地(福井市管内)における農業の実態調査  
☛農林水産省や福井市の統計データを用いて資料調査
- ②三里浜オリーブ導入の背景について  
☛生産組合構成員に対するヒアリング調査
- ③オリーブの今後の経営展開の方向性について  
☛オリーブを使った6次化商品の開発



ふくいさんホームページより

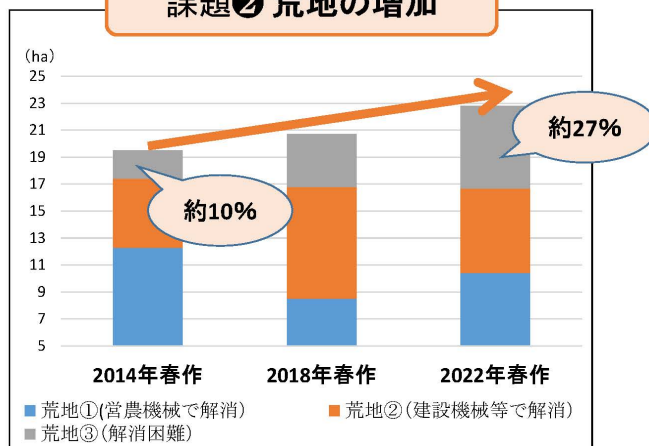
# ①三里浜農業の実態調査結果

## 課題① 農業従事者の減少・高齢化



農林業センサス

## 課題② 荒地の増加



福井市畑作調査

地域農業の活力が低下していた **そこで** オリーブ栽培で地域振興を図る!

# ②ヒアリング調査結果

## ① 人手不足の課題

後継者がいないことが一番の問題...

収穫時期に人手が足りない...

組合員の高齢化が進んでいる...

どのように人を呼び込んだら  
良いか分からない...

今の栽培活動に追われていて  
後継者のことを考えている  
暇がない...

三里浜オリーブをもっと  
多くの人に知ってもらいたい...

新商品の開発を  
したいが  
時間も技術もない...

栽培はまだ手探り状態で収量  
が安定しない...

オリーブが健康に良いこと  
をアピールしたい...

## ② 認知度の課題

## ③ 栽培技術の課題

オリーブ栽培での新たな課題が明らかに **そこで** オリーブで儲かる農業の実現を!



### ③オリーブ生産の今後の経営展開

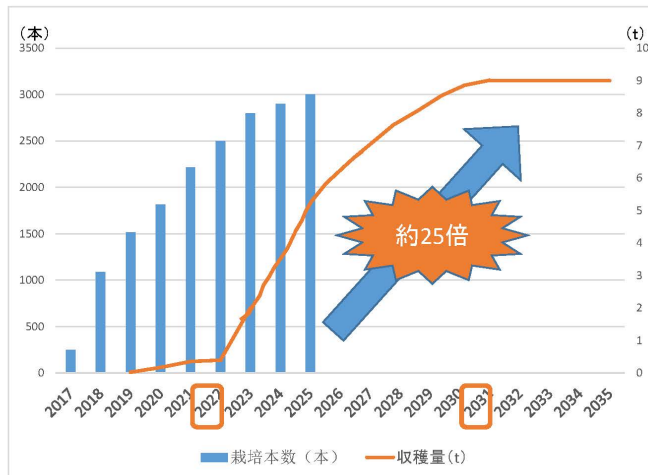


図. 収穫量シミュレーション

➡ 加工品アイテムを増やしていく必要があった

表. 加工品内訳シミュレーション

加工量	2022年	10年後	2032年
加工品		⇐	
オリーブ オイル	310kg	⇐ 約10倍	3,000kg
新漬け	60kg	⇐ 約10倍	500kg
新アイテム	-		5,500kg
合計	370kg	→ 約25倍	9,000kg

現在の加工品アイテムだけでは、  
増えていく収穫量全てを補えない！

### オリーブ加工製品の新しいアイテム開発



図. 試作の様子

#### 1. 商品コンセプト

三里浜産農産物(オリーブ)の**消費拡大** 福井の味  
三里浜地域全体の**地域活性化** 福井のお土産品

#### 2. 材料

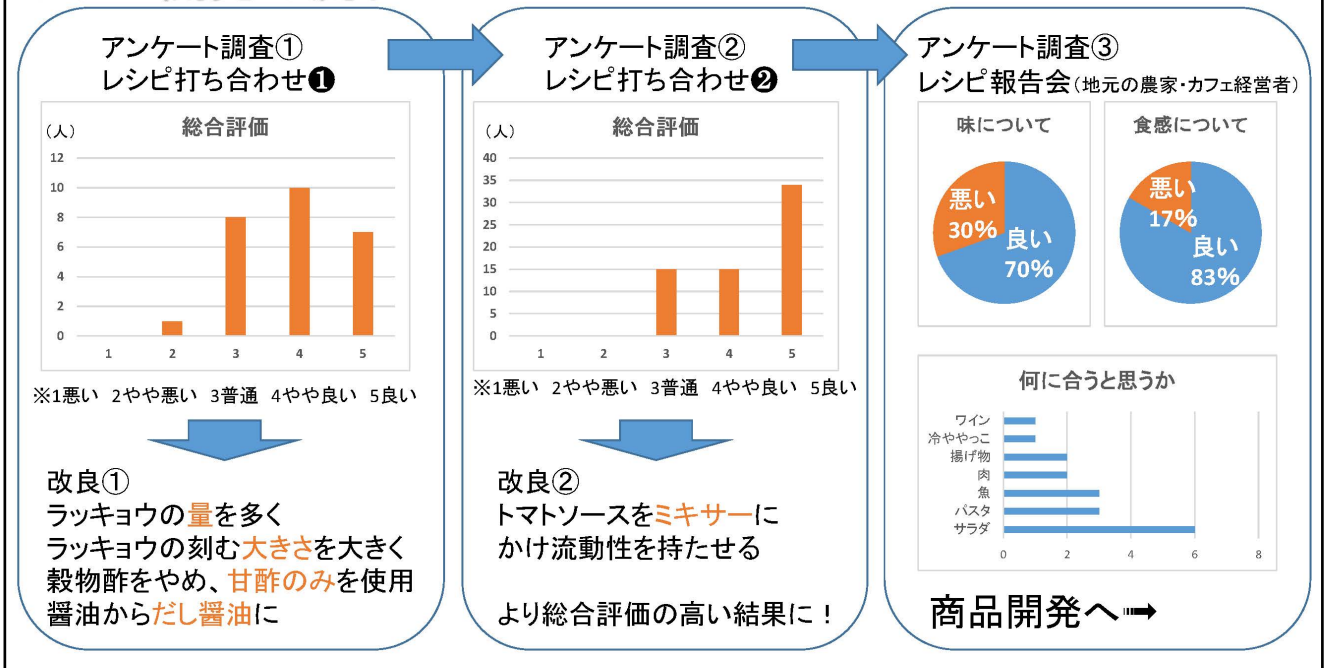
三里浜特産の**三年子ラッキョウ** **オリーブオイル** **越のルビー**  
その他三里浜地域周辺で穫れた農産物

#### 3. 商品特徴

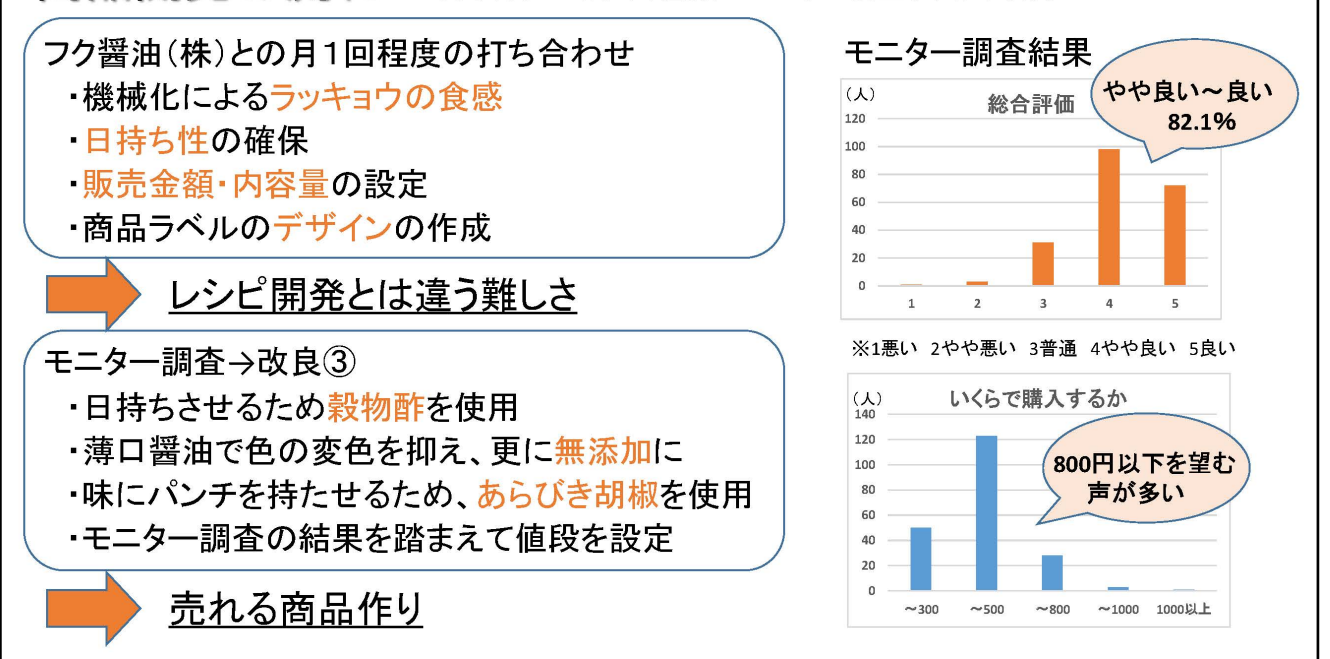
オリーブの**香り** 三年子ラッキョウの**シャキツ**とした**食感**  
甘酢の**甘酸っぱさ** 越のルビーの**甘み**



# レシピ開発の流れ ⇒ アンケート調査 + レシピ打ち合わせ (調理・6次化商品作りの専門家) → 改良



# 商品開発の流れ ⇒ 打ち合わせ (月1回程度) + モニター調査 (2回) → 改良



## 三里浜ドレッシングのまとめ

商品名 : 三里浜ドレッシング  
 →三里浜地域とオリーブの知名度向上！  
 販売価格: 680円(税別) / 120ml  
 →手に取りやすいサイズと価格に設定！  
 販売場所: なつめカフェ・福福館・福井県JA直売所(喜ね舎等)  
 →今後も販売場所を拡大予定！  
 販売状況: 約580瓶売り上げ(12月1日から1月末)  
 →月産100瓶以上で製造予定！  
 年間販売目標本数: 2000瓶  
 使用オイル量: 56ml(1瓶当たり)  
 $56\text{ml} \times 2000\text{瓶} = 112\ell$   
 ⇒約300本の木から穫れるオイル量  
 ⇒三里浜オリーブ栽培本数の約1割に相当！  
 地域の変化: オリーブ収穫祭の実施、ふるさと茶屋の整備  
 ⇒地域の動きも活発に！  
 地域住民に喜んでもらえた！

## 今後の展望

加工品	加工量	2022年	10年後	2032年
オリーブオイル		310kg	約10倍 →	3,000kg
新漬け		60kg	約10倍 →	500kg
ドレッシング		-		3,000kg
その他				2,500kg
合計		370kg	約25倍 →	9,000kg

オリーブを活用した  
 新商品の開発  
 継続した取り組み  
 が必要！



図. 三里浜ドレッシング

【所属・氏名】 福井県立大学 海洋生物資源学部 海洋生物資源学科 宮崎 新

【実績・業績】 越前若狭の観光宣伝隊

【実績・業績内容】

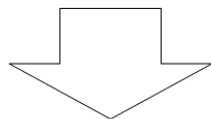
# 越前若狭の宣伝隊を 通じて福井の魅力を発信

福井県立大学 海洋生物資源学部 海洋生物資源学科  
宮崎新

## 背景

福井県は観光名所や特産品など数多くある  
にも関わらず、全国に認知されていない

北陸新幹線敦賀開業が控え、福井県は100年  
に1度のビッグチャンスが訪れる！

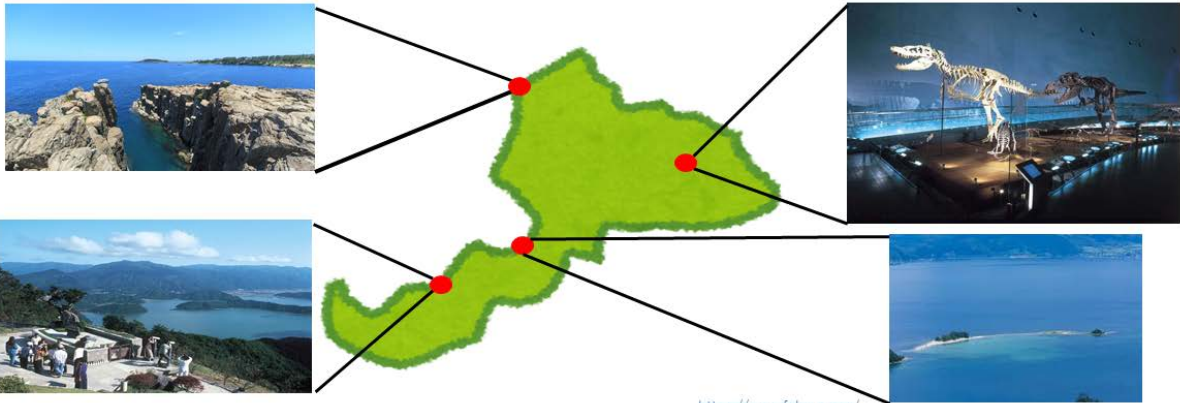


**福井県の良さを知ってもらう必要がある！**

## 越前若狭の宣伝隊とは

福井県観光連盟の管理・指導の下、県内外で福井県をPRする

関東、中部などの地域やターゲットに応じた顧客に基づく出向宣伝を実施し、さらなる観光客誘致を促進する



## 現在の取組み

### ● 福井県内のイベント参加

↓  
地元地域の方々との交流  
福井県の魅力を再確認

### ● 県外のイベント参加

↓  
福井県の魅力をPR  
(パンフレット配布、ステージPR等)

### ● 定期的な研修

↓  
福井県の観光基礎情報研修  
言葉で伝える技術・話し方研修

↓  
**ふくい魅力発信のコンシェルジュとして育成！**

<https://www.fuku-e.com/>



## これからの取組み

今までは北陸新幹線の敦賀までの延伸を見据えた  
出向宣伝を行っていた（東京都、長野県など）



- 大阪延伸を見据えた出向宣伝を行う予定  
（京都府、大阪府など）
- TwitterやInstagramなどのSNSに注力する  
ことで、福井の魅力を発信する



<https://www1.city.obama.fukui.jp/obm/shinkansen/>

【所属・氏名】 仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科 宮永 彩子  
【実績・業績】 イベントのボランティア体験と福井の観光課題についての卒業研究

【実績・業績内容】

令和5年度 ふくい地域創生アワード

# 日本の観光から見える 福井県の観光課題

—福井県の観光に必要な魅力とは何なのか?—

仁愛大学 人間学部  
コミュニケーション学科 4年生  
宮永 彩子

## 1. 目的と背景

### 背景：

- ・ 新型コロナウイルス (Covid-19) の影響でこれまでの生活スタイルが大きく変化
- ・ 2024年3月16日に北陸新幹線が金沢～敦賀まで延伸予定
- ・ 大学の授業や課外活動等を通して、福井県や越前市の現状を探求してきた実績がある

### 調査方法：

観光に関する主要都道府県別の統計データ & 仁愛大学在学学生68名のアンケート調査

☞ 福井県が新幹線延伸後も発展していくためにはどうしたらよいか

# はじめに、 全国の人気観光地と 福井県の人気観光地の特徴を 確認してみる

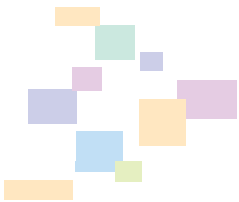
## 全国の年間入場者数上位10施設（2020・2021年度）

順位	施設名	所在都道府県	入場料	入場者数（人）		増減率
				2020年度	2021年度	
1	東京ディズニーランド&東京ディズニーシー	千葉	有料	7,560,000	12,054,000	159.4%
2	ナガシマリゾート	三重	無料	9,970,000	10,620,000	106.5%
3	刈谷ハイウェイオアシス	愛知	無料	5,305,000	6,351,000	119.7%
4	淀川河川公園	大阪	無料	4,326,498	3,871,052	89.5%
5	おかげ横丁	三重	無料	3,640,000	2,500,000	68.7%
6	JAあぐりタウン 元気の	愛知	無料	2,245,000	2,219,000	98.8%
7	よこはまコスモワールド	神奈川	無料	1,000,000	2,200,000	220.0%
8	国営昭和記念公園	東京	無料	2,182,553	1,859,158	85.2%
9	ラグーナテンボス	愛知	有料	1,630,000	1,830,000	112.3%
10	名古屋市東山動植物園	愛知	有料	1,350,758	1,806,059	133.7%

全国では、  
東京ディズニーリゾート  
や、ナガシマスパーランド  
といったレジャー施設  
が人気

出所：総合ユニコム株式会社（2023）「全国レジャー・集客施設運営実績&動向調査」より抜粋





観光地名	市町名	観光客入込数(延べ人数)			対前年比	対R1比
		令和4年	令和3年	令和元年		
武生中央公園	越前市	千人 1,289	千人 1,172	千人 1,420	% 110.0	% 90.8
道の駅「南えちぜん山海里」※1	南越前町	1,186	396	-	299.5	-
日本海さかな街	敦賀市	1,000	880	1,300	113.6	76.9
恐竜博物館・かつやま恐竜の森	勝山市	989	534	1,259	185.2	78.6
西山公園	鯖江市	790	620	899	127.4	87.9
一乗谷朝倉氏遺跡	福井市	751	567	1,057	132.5	71.1
氣比神宮	敦賀市	692	575	745	120.3	92.9
道の駅「越前」	越前町	658	572	859	115.0	76.6
道の駅「越前おおの荒島の郷」	大野市	626	671	-	93.3	-
東尋坊※2	坂井市	620	451	1,414	137.5	43.8
あわら温泉	あわら市	551	424	838	130.0	65.8
越前海岸(越前町)	越前町	539	432	825	124.8	65.3
大野まちなか観光	大野市	533	360	865	148.1	61.6
熊川宿	若狭町	493	384	465	128.4	106.0
道の駅「恐竜渓谷かつやま」	勝山市	442	325	-	136.0	-
道の駅「若狭おぼま」	小浜市	386	427	582	90.4	66.3
レインボーライン	美浜町・若狭町	378	340	371	111.2	101.9
蘇洞門・若狭フィッシャーマンズワーフ	小浜市	320	329	457	97.3	70.0
大本山永平寺	永平寺町	317	192	522	165.1	60.7

## 福井県の特徴

福井県の観光客数は増加傾向  
公園や道の駅・歴史遺産が人気

レジャー施設が少ない

出所: 福井県 (2023) 「令和4年 福井県観光客入込数(推計)」より参照

大学生は、  
なにを求めて旅行しているのでしょうか  
在学生に対して魅力的な観光地に関する  
アンケート調査を行った



## 4. 学生アンケート

### 大阪・京都

直近3年以内・複数回答可

順位	観光地		人数(人)	比率(%)
第1位	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	レジャー	34	54.0
第2位	道頓堀	買い物	26	41.3
第3位	大阪駅	駅	19	30.2
第4位	嵐山	自然	18	28.6
第5位	清水寺	歴史 文化	16	25.4
行った ことがない			8	12.7

### 東京

直近3年以内・複数回答可

順位	観光地		人数(人)	比率(%)
第1位	東京駅	駅	19	32.2
第2位	東京ディズニーリゾート <sup>*</sup>	レジャー	17	28.8
第3位	渋谷	買い物	16	27.1
第4位	浅草	歴史	14	23.7
第5位	原宿	買い物	13	22.0
行った ことがない			29	49.2

※例外的に東京都の観光地として設定

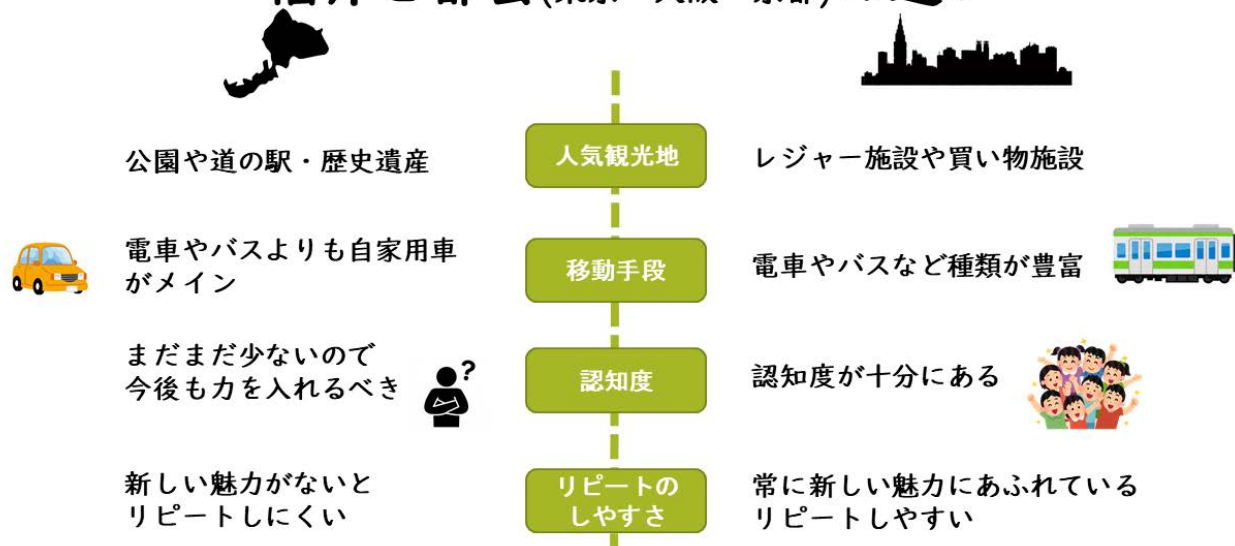


## 旅行に行く機会

複数回答可

順位	回答	人数 (人)	比率 (%)
第1位	家族や友人から誘われた	53	77.9
第2位	卒業や記念日など旅行に行く 区切りのいいタイミングであったから	40	58.8
第3位	行きたい祭りやライブがあったから	28	41.2
第4位	インターネットやSNSで興味を持ち 行きたくなったから	19	27.9
第5位	友達の家に遊びに行きたいから	13	19.1

## 福井と都会(東京・大阪・京都)の違い



## 考察とまとめ

- 都会では大型レジャー施設が人気で、福井では公園や道の駅・歴史遺産が人気である
- アンケート調査をしたところ、大学生は大型レジャー施設や買い物を求めて、東京や大阪といった都会に観光をしに行っている



地方では認知度が低い

- 観光客を増加させるために、SNSやネットなどのメディアを活用して、気軽に参加できるように、ツアー形式などのイベントを増やすべき





## 結びに

本制度の認定は、FAAふくいアカデミックアライアンスが行っております。この協議体は県内すべての高等教育機関（福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学・福井医療大学・仁愛女子短期大学・福井工業高等専門学校の8校）が参加し、福井県の協力により運営されています。このFAAふくいアカデミックアライアンスでは、基本理念に基づき4つの部会を設けて活動をしています。この「ふくい地域創生士」「ふくい地域創生アワード」の活動を担っているのは主に「教養共同化部会」です。

なお、このふくい地域創生士の制度を発足させるに当たっては、次のような経緯・背景がありました。

地域志向科目、課題探求型の取組を推進するためには学生たちに分かりやすいインセンティブ、モチベーションになるものが必要ということで、就職等にも活用できる認定制度「ふくい地域創生士」を、平成29年度に制度化しました。さらに平成30年度には、その中から「顕著な業績を残し、地域の持続的発展に寄与できる人材」として推薦されると、「ふくい地域創生アワード」として表彰される制度を創設しました。

この「ふくい地域創生士」とは「ふくい」という名を冠しておりますが、あくまでも福井というフィールドで学んだということであって、福井に限定した認定制度ではなく、「地域創生士」はいろんな地域それぞれに適応し、通用する人材として育成したいという想いが込められており、地元出身者を地元に残すためだけの取組ではないという特徴があります。よって、毎年多くの「ふくい地域創生士」が福井県内に留まらず、それぞれの地元へ帰って、「ふくい」という名を冠しながら活躍を続けています。

この制度が、COC+事業からFAAふくいアカデミックアライアンスに引き継がれ、この令和5年度には、「ふくい地域創生士」として福井大学44名、福井県立大学24名、仁愛大学5名の計73名が認定されました。

認定制度を開始してからの7年間で、令和5年度認定者数を含めると「ふくい地域創生士」に453名が認定され、「ふくい地域創生アワード」に43名の方が表彰されています。

これまでに認定を受けた学生からは、「この制度の魅力は就活に有利にアピールできること以外に、自分の価値観が変わることにあると思う。授業やフィールドワーク、インターンシップを通して、たくさんの課題に直面する過程で、物事へのアプローチや他者との関係のなかで自分の考え方を見つめ直すことでもあると思う。このような魅力をぜひ後輩に伝えたい。」という声が寄せられています。

制度の認知度や活用など改善していくべき課題は多く存在しますが、一部、福井県の採用試験（アピール枠）などでもとりあげられるなどしておりますので、今後益々、地域産業界等のご理解・応援を得て、採用の際に前向きなご評価をいただきますと共に、昨年度より行われているふくい地域創生士のOB・OGとの交流などの機会を挙げ、「ふくい地域創生士」に認定された学生がそれぞれのフィールドで活躍し、それをまた後輩たちに還元していく流れを作ることで、新たな世代間交流が生まれ、本制度の進化・深化に繋がり、ひいては地域創生への大きな原動力となっていくことを期待しています。



令和5年度表彰者

# ふくい地域創生アワード

実績・業績集

